

AAC

AICHI ARTS CENTER

アートを読む、あいちを読む

2015/vol. 85
Autumn

愛知芸術文化センター 情報誌

よそいきを着て、出掛けましょ。—— 愛知芸文フェス



よそいきを着て、出掛けましょ。



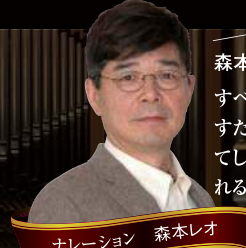
指揮 小崎雅弘 構成演出 池山奈都子 ソプラノ 吉田恭子 メゾ・ソプラノ 清水華澄 テノール 又吉秀樹 バリトン 堀内康雄 バス 伊藤貴之 オルガン 勝山雅世



躍進する創立15周年のオーケストラ
中部フィルハーモニー交響楽団



山口浩史(合唱指揮)の指導のもと
歌稽古に励む愛知県芸術劇場合唱団



ナレーション 森本レオ

森本レオさんからのメッセージ
すべての“アート(技術)”というのは、夢を捜すための“旅”です。年経るほど夢ははぐれてしまうのですが、時々旅立った場所に帰れるのが、うれしくて。名古屋、ありがとう。

プログラム

- ◆「カヴァレリア・ルスティカーナ」祈り～“ママも知るとおり”
- ◆「カヴァレリア・ルスティカーナ」間奏曲～乾杯
- ◆「ノルマ」“ご覧なさい、ノルマ”
- ◆「ロミオとジュリエット」二重唱“あなたを許します”
- ◆「運命の力」3幕“恐ろしい死よ、この中に私の運命がある”
- ◆「蝶々夫人」花の二重唱
- ◆「ファウスト」4幕3場 教会シーン
- ◆「トスカ」テ・デウム ほか



2014年公演、シャガールコンサートより Photo:中川幸作

「オルガンの心」を、森本レオが代弁!?!
様々な声と音が響くドラマティックな空間

ガラ

「ガラ」は、クラシックの愛好家だけでなく初心者にもオススメ。オペラの名曲を集めたところに、オルガンの魅力もプラス。さらにナレーションが入ること、よりドラマティックな空間を出現させる。担当の水野学シニアプロデューサーに話を聞いた。

「オペラの名曲を揃えたガラ・コンサートのオルガンを絡ませたい」というところから始まったんですけど、調べてみると、そういう楽曲が少なく苦労しました(苦笑)。同時に、オペラらしい雰囲気、構成演出や衣装、道具類もできる限り趣向を凝らそうと。そう考えるうち、1曲1曲を並べただけでは流れに無理があるなと思い、池山奈都子さんと相談してオルガンがコンサート全体を仕切っていく感じになるよう、オルガンの声を立てることにしました。」

このオルガンの声を務めるのが名古屋出身の森本レオだ。俳優業のみならずナレーションの世界でも第一人者である森本が、知られざる、オルガンの気持ち、をどう伝えてくれるのか、楽しみは尽きない。また、出演者の堀内康雄をはじめ、これまででも当劇場の企画に携わったキャストとスタッフが勢揃い。

Report オペラ体験!



7月23日(木)・24日(金)、愛知県芸術劇場大ホールホールにて実施
Photo:羽鳥直志

オペラの関連企画として、演出家・池山奈都子による恒例のワークショップが開催された。オペラ「ヘンゼルとグレーテル」を題材に、協力参加のオペラ歌手にもリードされながらコーラスや演技に挑戦! また、小道具作りなど舞台を支えるスタッフワークも体験した。そして締めくくりには保護者の方々を前に1シーンを披露。プログラムの集大成を見せた。

愛知ゆかりの実力者たちが、新たな愛知オリジナルのステージを作り上げる。

オペラ・ガラ・コンサート
with パイプオルガン

11月3日(火・祝) 15:00
愛知県芸術劇場コンサートホール
SS席7,500円 S席5,500円 A席3,500円(学生2,500円)
B席2,500円(学生1,500円)
※学生料金は25歳以下対象。
※未就学のお子さまは入場できません。

Check!

数々の主催オペラ公演に出演してきた“AC合唱団”が、“愛知県芸術劇場合唱団”に改名しました。7月の「オペラ体験!」には、メンバーがソリスト役で出演。今年は、クリスマスのオルガンコンサートにも出演しますよ! (プロデューサー:加藤 愛)



DECADANCE

©Gadi Dagon

バットシェバ舞踊団

パロネス・バットシェバ・デ・ロスチャイルドが1964年に設立したバットシェバ舞踊団は、マーサ・グラハムを最初の芸術監督として始動。89年からイスラエル第2の都市テルアビブを拠点とする。90年にはオハッド・ナハリンが芸術監督に就任。彼の考案したメソッド(GAGA(ガガ))が反響を呼び、さらに飛躍した。本公演担当・唐津絵理シニアプロデューサーいわく「身体のエネルギを非常にシンプルに見せるので、難しいことがわからなくても理屈抜きで楽しめます。いろいろな国で取り上げられている(ガガ)は一般の人にも影響力があって、不自然になっている現代人の身体に気づきをもたらすというのか、身体の知覚を解放してくれるんです」。



オハッド・ナハリン ©Nero

最近では森山未来がダンス留学先を選んだことでも話題を集めたイスラエル。かの国のダンスは、いまや世界のトップレベルにある。その中でもシーンをリードする存在がオハッド・ナハリンだ。パリ・オペラ座バレエ団やネザール・ダンスシアターなど名門カンパニーと数多く仕事を果たす彼は、最も多忙な振付家のひとり。そんなナハリンが芸術監督として率いるバットシェバ舞踊団も、来日の度に評判を呼んできたが、この秋ついに愛知初登場! しかも、代表作のハイライトシーンで構成される「DECADANCEーデカダンス」を上演するというから、初体験するには最高の舞台に!!

昨秋、愛知県芸術劇場に登場したスペイン国立ダンスカンパニーの公演に「マイナス16」という演目があったことを覚えているだろうか。この演目こそ

最も熱いダンスシーン! イスラエルの舞踊団が
イイトコ取りの代表作を携えて初登場

実は、ナハリンの振付作にしてバットシェバ舞踊団の人気レパートリー。昨年の記憶も鮮やかなその「マイナス16」を今回、本家バットシェバのダンサーたちが見せてくれるから嬉しい。居合わせれば誰もが驚きと興奮に包まれてしまう「マイナス16」。その詳細はネタバレにならないので観てのお楽しみだが、舞台と客席の境が揺らぐ趣向は、劇場ならではのスペクタクルなものだ。

その他、日本でも人気の「Mao」などが入る。予定。というのも、舞踊団は日々新しい作品を生み出しているのだから、代表作で構成される「デカダンス」も上演の度に更新され、ギリギリまで演目選定が行われるからだ。もともと20周年記念として制作されたが、日本では初披露。鋭いカンパニーの現在、その今日的表現に衝撃を受けることは間違いない。

バットシェバ舞踊団
「DECADANCEーデカダンス」

10月7日(水) 19:00
愛知県芸術劇場大ホール
S席8,000円 A席6,000円 B席4,000円
C席3,000円(C席学生2,000円) チャレンジシート1,000円
※学生料金は25歳以下対象。
※3歳以下のお子さまは入場できません。
※チャレンジシートは公演当日10:00～、愛知芸術文化センター内プレイガイドでのみ販売。

Report ダンス体験!

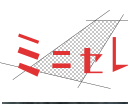


7月26日(日)・27日(月)、愛知県芸術劇場大ホールにて実施 Photo:羽鳥直志

ダンスの関連企画として、国際的なダンサー・小尻健太が小学生を対象にワークショップを開催した。リズムに合わせて身体を動かしたり、飛んできた何かをよけるイメージで動いたり、「(はじける)〈生まれる〉」といった言葉に反応して集団の動きを創作したり、次々とプログラムが進行。子どもたちは時に遊戯感覚で、時に真剣に表現することを体験した。

Check!

チャレンジシートは、公演当日の10時から限定販売する1,000円の子チケット。チケットのご購入までには、色んな事情がありますよね(笑)! 枚数限定ですが、ぜひこの機会にチャレンジしてみてください! 詳細は、公演の一週間前までにホームページや劇場Facebookにて発表します! (アシスタントスタッフ:吉安恵子)



プログラム

◆ウヴェ・ショルツ振付
「春の祭典」

◆ユーリン振付
「悪魔の物語」(「兵士の物語」より)

◆マルコ・ゲッケ振付
「火の鳥」のバド・ドウ



ダンスオペラ「悪魔の物語～兵士の物語より」(2004年、愛知県芸術劇場大ホール) Photo: 南部辰雄

音楽の巨匠による傑作3本で世界の認められた振付家3人が大競演!



20世紀を代表する作曲家であり、ダンスと音楽の関係にも多大な影響を及ぼしたイーゴリ・ストラヴィンスキーの傑作を、3本一挙に堪能できるチャンス到来! ストラヴィンスキー・トリプル・ビルでは「春の祭典」「兵士の物語」「火の鳥」の3作品が、国際的な振付家3人と世界各地で活躍するダンサーたちによって上演される。

まず「春の祭典」は、2004年に46歳の若さで急逝したウヴェ・ショルツの遺作。ロシア人のアレクサンダー・ザイツェフと日本人の高比良洋がWキャストで踊ることによって、音楽とダンスそれぞれの解釈を何重にも味わえる趣向だ。

「兵士の物語」は、04年に「悪魔の物語」として発表された愛知オリジナルのダンスオペラを再制作する形で。振付は初演同様、香港の奇才ユーリンだ。初演を製作した唐津絵理シニアプロデューサーはユーリンの「悪魔」は、兵士が何人も出てきたり、物語の視点を悪魔に置き換えたりする、読み替えや反転の面白さがありました。今回は、能楽師の津村禮次郎さ

ストラヴィンスキー・トリプル・ビル
～現代バレエで見る、ストラヴィンスキーの音楽～
11月28日(土)・29日(日)
±15:00/19:00 日15:00
愛知県芸術劇場小ホール
一般5,000円 学生4,000円
当日5,500円(一般・学生共)
※全席指定。
※学生料金は25歳以下対象。
※3歳以下のお子さまは入場できません。

よそいきを着て、出掛けましょ。

創 立45周年を迎えたオペラ制作団体・名古屋二期会がユニークな新作を発表する。主人公は徳川宗春だ。

8代将軍・徳川吉宗が享保改革で質素節約をうたった頃、尾張7代藩主の宗春は芸能や娯楽を推奨して中央政権と対立。自身も奇抜な服装で周囲を驚かせるなど尾張文化を盛り上げた。一方「温知政要」を定めて人権を尊重。進歩的な政治家の顔も。最後は吉宗に蟄居謹慎を命じられるほど波乱の人生を送った宗春が、オペラとなって現代によみがえる。

2005年公演「なよ竹の輝夜」

名古屋二期会 創立45周年記念公演
麻創けい子台本、中田直宏作曲(新作委嘱)
矢澤定明指揮、西川右近演出
オペラ「宗春」
10月24日(土)・25日(日)
±17:30 日14:00
愛知県芸術劇場大ホール
S席11,000円 A席9,000円 B席7,500円
C席5,500円 学生席3,500円
※未就学のお子さまは入場できません。
お問合せ:名古屋二期会 ☎052-380-5416

輝夜」でも手腕を発揮した中田直宏が作曲。台本は演劇界のベテラン・麻創けい子。両者が和製オペラの魅力を存分に味わせてくれる。今までオペラを観たことがない人も、日本語上演の「宗春」でデビューなんていかがでしょうか?



2005年公演「なよ竹の輝夜」より

和物でオペラ・デビューしませんか?

フランスのエスプリ漂う作品が日本初上陸、愛知にも登場する。ヴィクトリア・ナイエリ・チャップリンの構想演出、オーレリア・ティエリ出演の「ミュルミュル・ミュール」は、演劇やダンスにイリュージョンの要素まで入り交じった、まるで魔法のような舞台だ。

ヴィクトリアは1970年にフランスの有名サーカス団であるシルク・ボンジュールのジャン・バティスト・ティエリと出会い、ふたりの子どもを授かる。そのひとりがオーレリア。つまり、この舞台は母と娘の共作によって

生まれた。ちなみに、シルク・ボンジュールの「シルク」とは、英語で言うサーカス。有名なシルク・ド・ソレイユを思い出してもらえればわかるとおり、フランス系のサーカスは極めてアーティスティックな発展を遂げてきたが、ヴィクトリアとジャン・バティストは、その礎を築いた存在として世界中に影響を与えてきたのだ。

オーレリアがほとんど言葉を使わず演じる「ミュルミュル・ミュール」では、イリュージョンの技術を生かした幻想性が見どころ。舞台は、時に賑やかなダイ

ニングルーム、時に喧騒に包まれた街、時に静かな海の奥深くへと早替わり。しかも布や段ボール、梱包材(プチプチとかね!)など身近なモノを使っていて、どこかアナログな感覚も楽しい。また、身体表現には無声映画に通じる面白さがある。

愛知公演は日本ツアー最小間の至近距離で観られるが、その分、席数にも限りがある。チケット購入はどうぞお早めに!



オーレリア・ティエリ ©S.Valeska

「ミュルミュル・ミュール」
10月21日(水) 19:00
愛知県芸術劇場小ホール
一般4,000円 大学生以下2,000円
※全席指定。
※2歳以下のお子さまは入場できません。

ストーリー

主人公のオーレリアは、夢見る不思議な女性。彼女は取り壊しの決まった古いアパートから引っ越さなければいけないのに、なかなか荷造りが進まない。部屋は積み上がった段ボールだらけ。ところが、そこを彼女が覗くと、不思議な世界が広がって……!



Photo: R.Haughton

あのユラユラ体験、再び!!

愛

知芸術文化センター内の吹き抜けスペースを活用したフォーラム・プロジェクトが、好評に応じて再び行われる。メイン会場は地下鉄連絡口と直結した地下2階のフォーラムII。そこにドドゥンと出現するのが、アーティストユニット「D.D.」のインスタレーションだ。不安定な感覚をコンセプトにした作品群は、座ったり触ったりダイレクトに体感できるのが特徴。特に、布を張り巡らした巨大な立方体の中を歩く作品は、遊園地のアトラクション感覚で楽しい。大人でも案外とまどう姿は笑えるうえ、誰かが入っている様子を外側や吹き抜けの上から見て面白い。もちろんアートとして鑑賞するだけでもOKです!

フォーラム・プロジェクト
あるく劇場
10月6日(火)~25日(日)
※10/19(月)は休館
フォーラムII
(愛知芸術文化センター地下2階) 他無料



D.D.(今村 哲+染谷亜里可)



アーティストユニットD.D.によるインスタレーション「観客にとっては“不意打ち”、歩くものにとっては“成果”」 Photo: 羽鳥直志



線をあなたどるな！ 新たな視点から 再検証する 線の魅力

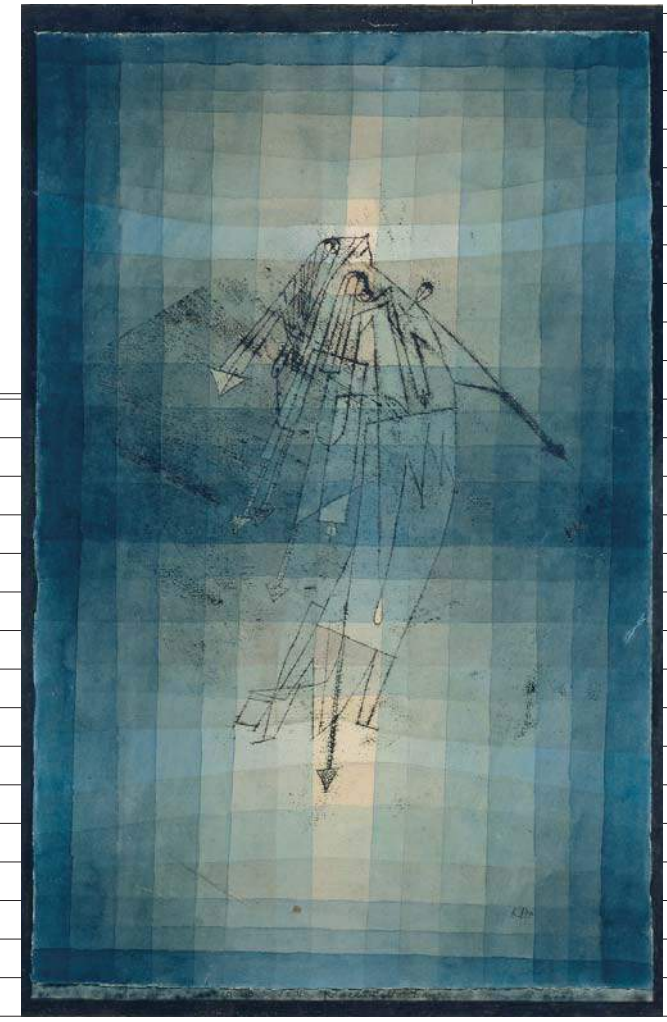
取材・文：田中由紀子

鉛 筆や絵筆を紙やキャンバスに置きスリットと滑らせる。そこに表れる一本の線は、絵画の一部となり、文字や記号の画となる。あるいは、教科書や書類に引かれた下線や波線はその箇所新たな意味を与え、地図上に引かれた線は国や県の境界を示す。さらには、鉄道路線や主要道路を〇〇線と呼んだり、画像データを構成する画素数のことを線数と言ったりと、線は最も基本的な造形要素であることにとどまらず、美術のジャンルを越えて、私たちが何かを表現したり伝えたりするうえで、なくてはならないものといえる。

「昨年の「アイチの子カラ！ 戦後愛知のアート、70年の歩み」、昨年の「あなたのリアル、わたしのリアル。」に続く今年のコレクション企画は、所蔵品をこれまでにない幅広い視点で再考し、

あらためて「線」の魅力に迫ろうというもの。「線」の造形的な側面に注目するだけでなく、境界線や音楽、運動などに見出せるさまざまな概念や、書とイメージといった横断的な視点から「線」を紹介する。

「たかが線」と眺めているうちに、線の底知れない魅力にハマってしまうかも。



おそるべし！
独自技法による
ニュアンス線

パウル・クレー《蛾の踊り》1923年

中央の擬人化された蛾のイメージは、オイル・トランスファー・ドロイングという技法による。これはクレーの独自技法で、紙に塗った黒い油絵具が乾ききらないうちに白い紙にのせ、先のとがった筆記具でその上に重ねた原画をなぞって写し取るという、いわば自家製カーボン紙による転写技法。少しかすれたようなざらついた線が、鉛筆やペンでは表現することのできない独特のニュアンスを醸し出している。フリーハンドで描かれた水彩の青色の線の重なりが格子模様を生みだし、そのグラデーションも美しい。

コレクション企画「線の美学」
10月16日(金)～12月13日(日) 愛知県美術館
10:00～18:00 ※金曜日は20:00まで。(入館は閉館の30分前まで)
月曜休館 ※ただし11月23日(月・祝)は開館、11月24日(火)は休館。
一般500(400)円 高校・大学生300(240)円 ※()内は20名以上の団体料金。 ※中学生以下は無料。

※P5～6で紹介した作品は、すべて愛知県美術館蔵。熊谷守一《線裸》、白隠慧鶴《布袋図》の2点は木村定三コレクション。

線の美学

油絵具の線



熊谷守一《線裸》1927年

一見、ぐにやりとねじれた紐かと思いきや、描かれているのは仰向けに横たわる裸婦の姿。ひと筆で一気呵成に描き上げたかのような勢いのある油絵具の線の中に、人体の形やボリュームが浮かび上がってくる。

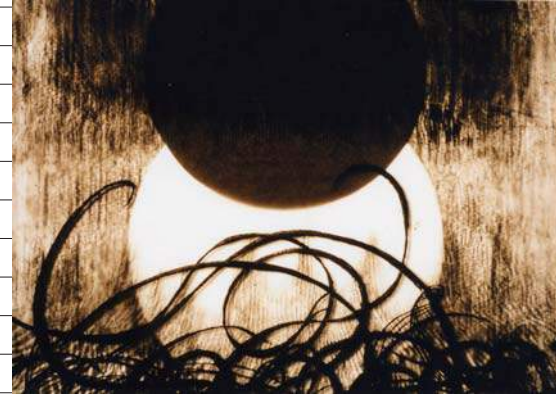
積層する線



袴田京太郎《ハルガ》2008-2009年

写真ではさまざまな色の線を無数に連ねて人体を描いた絵画にも見えるが、これは彫刻。発泡スチロールの原型を輪切りにし、そのパーツから起こした型紙をもとに切り出されたアクリル板が、幾層にも重ねられている。

奏でる線



石田尚志《フーガの技法》2001年

「バッハの同名楽曲を視覚化したい」という発想から生まれたドロイング・アニメーション。細かな曲線を描いては撮影するコマ撮りにより制作された映像の中で、自律的にうごめき続ける線は、まるで生命体のようだ。

横断する線



白隠慧鶴《布袋図》江戸時代中期(18世紀)

江戸時代中期の臨済宗の禅僧、白隠は禅宗の教えを民衆にわかりやすく説くために、おびただしい数の禅画を残した。なかには漢字を画中に描いたものも。布袋の袋の中には「寿」が入っており、まさに異素材ミックス。

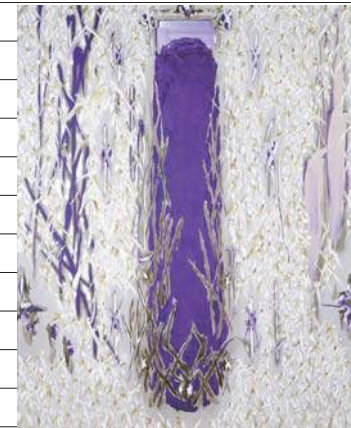
運動する線



勅使川原三郎《T-CITY》1993年 Photo: Martin Richardson

勅使川原が監督・撮影・美術・編集を手がけた初のフィルム・ダンス作品。水平線と垂直線により構成された街、T-CITYで、線に捕らえられた女性を救い出したことをきっかけに、線が瓦解し、街は崩壊。時間が喪失する。

増殖する線



中西夏之《紫・むらさきXIX》1983年

連作《紫・むらさき》のうちの1点。白の交差する短い弧線は、作家の背丈ほどもある長い筆を用いて描かれたもの。無数の弧線が中央の紫色とせめぎ合いながら、画面を埋め尽くそうと増殖していくかのよう。

レア映像、話題の
パフォーマンス映像……
ちよつとココでしか
観られません！



山城知佳子による愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品に出演する川口隆夫

上映を予定している主なプログラム

◆パトリック・キラー「ロビンソン三部作」

◆「線の美学」関連プログラム

◆松本俊夫著作集刊行記念
松本俊夫 新発見&再発見

◆監督：山城知佳子、出演：川口隆夫による、
愛知芸術文化センター・愛知県美術館
オリジナル映像最新作 etc.



松本俊夫「スペース・プロジェクション・アコ」記録映像 1970年

恒

例のアートフィルム・フェスティバルでは、いつにも増して貴重な映像を紹介。他ではなかなか観られない作品、本邦初公開の作品が無料で観られるだけに、ぜひご来場を！

まずイギリスのパトリック・キラーの「ロビンソン三部作」は、「ロンドン」（1994年）、「空間のロビンソン」（1997年）、「廃墟のロビンソン」（2010年）から成る、都市の風景をとらえたドキュメンタリー映画。愛知初上映の同作は膨大なナレーションも特徴的で、初めての映像体験を与えてくれる。また、風景をキーワードに所蔵作品を併映。風景への様々なアプローチにも触れられる。

さらに激レアなのが、「薔薇の葬列」（1969年）で知られ、戦後日本のドキュメンタリーや実験映画を牽引した松本俊夫の作品だ。特に、1970年の「日本万国博覧会」（大阪万博）で行われ、今や語り草となっている「スペース・プロジェクション・アコ」の記録映像は垂涎モノ。愛知県美術館主任学芸員・越後谷卓司に「ゴダールに比肩する、あるいは、それ以上かもしれない存在」とまで言わしめる松本の作品群は見逃せない。

もちろんアートフィルム・フェスの目玉、愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品も忘れちゃいけない。今度の最新作は、山城知佳子が監督を担当。ダムタイプのメンバーで、ソロでも活動する川口隆夫のパフォーマンスの記録に挑んだ。そのパフォー

マンスが実に興味深く、舞踏の偉大な先人・大野一雄の振付を完全コピーしているのだ。「魂の継承」と語られてきた舞踏の世界に、単純に動きを再現するという、思いもよらなかったアプローチをしている。そうして、そこから生まれてくるものは何か？と見る者に問いかけている。一方の山城監督はもともパフォーマンスの映像が多く、最近では東京の森美術館で取り上げられるほど注目度を高めている逸材なので、ユニークな作品を「ご覧いただけると幸いです」と越後谷。

なお、「線の美学」展の関連プログラムのひとつとして、同じく愛知オリジナル映像の代表作である勅使川原三郎監督「T-CITY」（1993年）が上映される。90年代の勅使川原作品と現在の山城作品、身体に切り込んだ両作を見比べてみるのも面白い。



←勅使川原三郎
「T-CITY」
1993年
Photo: Martin Richardson

→石田尚志
「フーガの技法」
2001年

第20回アートフィルム・フェスティバル
11月29日(日)~12月6日(日) ※11/30(月)は休館。
アートスペースA(愛知芸術文化センター12階)
入場無料 ※全席自由。

Check!

「アートフィルム・フェスティバル」で制作された、愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品や、大野一雄さんの公演記録映像は、アートライブラリーで見ることができます！ぜひお立ち寄りください!! (アートライブラリー担当：道倉明子)

ただいま生長中!? 「芸術植物園」展

取材・文：田中由紀子



狩野哲郎《あたらしい植物》
2014-2015年 ミクストメディア
©Tetsuro Kano, Courtesy Yuka Tsuruno Gallery

PROFILE

狩野哲郎(かのう・てつろう)

1980年宮城県生まれ。2007年東京造形大学大学院造形研究科美術研究領域修士課程 / 絵画コース修了。主な個展に「自然の設計 / Naturplan」(2011年、東京都現代美術館パブリック・プラザ)、「あいまいな地図、明確なテリトリー / Abstract maps, Concrete territories」(2013年、モエレ沼公園)。

ガラス壁の内と外が緩やかにつながる空間を楽しんで



Photo: 武田陽介

こんなこともできる! プログラムも満載

「芸術植物園」展の会期中には、子どもから大人まで楽しめるアート・プログラム「グランド・カフロス博士の庭」が展開中。左記で紹介した《常緑》の制作過程を体験できる「しばのぼし」や、《温かい家》の今村文によるワークショップ「ゆうれいお花の標本をつくろう」(9月19日(土) 13:30-15:00、小・中学生対象、参加費無料、事前申込制)など、楽しみながらアートに触れられる12のプログラムがラインナップされている。



今村文ワークショップの様子



だれでも・いつでも・プログラム しばのぼし

展示室で見た《常緑》のように、人工芝の葉を生長させよう。対象：子どもから大人まで(未就学児は保護者同伴)

参加費
無料

愛 知県美術館のラウンジに出現した不可思議な「庭園」。これは狩野哲郎によるインスタレーションで、現在開催中の「芸術植物園」展のために現地制作された作品だ。作品にはゴムやプラスチック製の日用品、スーパーボールや釣り具の浮きなどの工業製品と、枝や材木、石などの自然素材が組み合わされており、以前の展覧会では生きている鳥を展示室に放つことも。とはいえ、作家は人工物と自然物を組み合わせることに興味があるわけではない。

狩野の興味は、人間にとっての価値観や世界の捉え方は、人間以外の視点から見るとどうなのかということにある。たとえば、展示空間の野鳥は自然物である枝よりも人工物の金属製のフックに好んでとまったり、特定の色のスーパーボールをピックアップしたりするという。我々と鳥にとつての心地いい環境は異なるが、その違いは明確にはわからない。そうした「わからなさ」と提示されることで、人間が人間のためにつくり上げた環境や世界について問い返し、捉え直すことを促す作品だ。

まだある! 新作を紹介

今村文《温かい家》
2015年
水彩、紙、コラージュ

標本用の押し花かと思いきや、紙に水彩で描いた植物をていねいに切り抜いた切り絵。植物画を思わせる細密な描写が特徴だ。このドローイングの切り絵30点による大規模な壁面展示は、本展の見どころ。



渡辺英司《常緑》 2004-2015年 プラスチック(人工芝)

ホームセンターなどで売られている人工芝のマットの芝が、ところどころ生長しているのはなぜ? 雑草のように伸びたプラスチック製の芝が、笑いを誘いながら、私たちの固定観念に揺さぶりをかける。

芸術植物園 Between Botany and Art
8月7日(金)~10月4日(日)
愛知県美術館

10:00~18:00 ※金曜日は20:00まで。
(入館は閉館の30分前まで)
月曜休館 ※ただし9月21日(月・祝)は開館、9月24日(木)は休館。
一般1,100円 高校・大学生800円
※団体は200円引き。 ※中学生以下は無料。

Check!

グランド・カフロス博士とは、各地を旅する架空の文化人類学者。アート・プログラムの詳細は、愛知県美術館ホームページからチェック! (担当学芸員: 副田一穂)

演劇界も美術界も、スイスイと自由自在に！ 世界をも股に掛ける劇団が代表作と新作を2本同時上演



Photo: amemiyayukitaka

劇

団名の範宙遊泳は、範囀IIカテゴリーの中外を自由に遊泳するという意志の表れ。その看板どおりと言うべきか、最近では美術シーンでも話題にのぼることが多い。そんなユニークな気鋭集団が愛知で代表作を上演する。主宰の山本卓卓は弱冠20代。結成10年未満の彼らをイチ早く取り上げる山本麦子プロデューサーの心意気も熱い。



「初めて『幼女X』を拝見した時とても衝撃を受けて、必ず観ると直感しました。実際、その後すぐアジアツアーをなさったり、山本さんが岸田國士戯曲賞の最終選考にノミネートされたりと、急成長。気づけば世界へと羽ばた

く存在に……」

「幼女Xの人生で一番楽しい数時間」と題された公演は、連続幼女強姦殺害事件を題材とする「幼女X」と二人芝居「楽しい時間」をオムニバス形式で披露する企画。「幼女X」では、文字でのみ表現される人物（一）と生身の俳優のやり取りに驚く。また、もともと演出家本人の演じていた「楽しい時間」はキャストも変わり、ほぼ新作の様相だ。「範宙遊泳の作品は震災後の東京について問い続けている面があり、都市の中の孤独と祝祭を、一見ポップに見せながらシビアに描いています。映像を使ったり演出ともあいまって、台詞は最小限、基本モノローグ。だから観ていて何もかもスッキリするわけではないし、焦燥感も募るんですけど、そこに生への渴望を感じるというのか……。それは、水の中にいて、なんとか水面に上がろうとする時の、もがき、のようでもあるんです」

山本卓卓の見つめる集団社会や家族、あるいは（感覚と言葉）（生と死）という問題は、現代に生きる誰にとっても無関係ではない。世界に通じた範宙遊泳の舞台だが、まず観るべきは、私たち日本人ではないだろうか。

範宙遊泳

1987年生まれの脚本家・演出家・俳優、山本卓卓（やまととすぐる）を中心として2007年に東京で旗揚げ。現実と物語の境界を見つめ、双方の関係や在り様を問い直す作風で脚光を浴びる。最近では俳優と映像が対等に提示される演出で、2.5次元の演劇、とも謳われ、そのスタイルを生かした「幼女X」はアジア各地で公演。高い評価を受ける一方、美術界からも注目の的。なお、14年発表の「うまれてないからまだしねない」は第59回岸田國士戯曲賞の最終選考にノミネート。主宰・山本は劇作家としても注目度を増している。



山本卓卓

範宙遊泳
「幼女Xの人生で一番楽しい数時間」
10月1日(木)～3日(土)
木金19:30 土14:00/18:00
愛知県芸術劇場小ホール
【前売】一般3,000円 学生2,000円 高校生以下1,000円
【当日】一般3,500円 学生2,500円 高校生以下1,500円
※未就学のお子様は入場できません。
お問合せ：範宙遊泳 ☎090-6182-1813

Check! 範宙遊泳の作品は、俳優と映像を組み合わせた演出が特徴で、「2.5次元」の演劇とも呼ばれています。海外での活動も積極的に行っている同世代の注目カンパニーなので、私も楽しみです！（アシスタントスタッフ：村松里実）

地点「かもめ」

偉大なる劇作家 チエーホフを、 大胆にユニークに

都を拠点に国際的な活躍を見せる劇団「かもめ」が、ミニセレーのトップバッターとして愛知に初登場。世界の演劇史に輝くロシアの巨星アントン・チエーホフの戯曲を、地点の代表・三浦基が演出。好評を得てきて、代表作とうたわれる「かもめ」を上演した。

主人公の作家トレーレフ、母親で女優のアルカージナ、その恋人で人気作家のトリゴリン、主人公の恋人で女優志望のニーナ。彼らの相関関係を軸に、恋愛や葛藤、羨望や嫉妬といった感情の交差する物語だが、三浦演出では台詞を大胆に削ぎ落とし、戯曲のエッセンスを凝縮させている。また、もともと劇中劇が入る。メタ演劇の構造の戯曲を踏まえ、さらに、劇の外側、と言える趣向を用意。まずニーナを演じる看板女優の安部聡子が、開場時間中に観客をおもてなし！開演直前には登場人物や状況の説明を行い、居合わせた人はみな呆気にとられながらもその空気を丸ごと楽しんだ。

象徴性に富んだ美術も鮮やかな舞台は、難しい知識など抜きに、また演劇ファンの特を越え、偉大なる劇作家との新たな出会い方を示してくれたのだ。



5月9日(土)～11日(月)、愛知県芸術劇場小ホールにて公演 Photo: 羽鳥直志

PLAYBACK

何もかも消費する 現代社会に、 抗い、輝く

付の矢内原美邦を中心に、映像、音楽、美術の各作家が対等な立場で舞台を創作するカンパニー「ニブロールがリアルリアリティ」を発表した。生々しい現実感とは何かを問うステージには、新鮮な美しさと、今まで以上にヒリヒリと悲痛な想いが交錯していた。

ギョツとしたのは冒頭、縮首の映像。少しユーモラスでもあるが、やっぱり動揺してしまっ。一方、今回はバレエ経験のあるダンサーが多く、伸びやかで優雅な動きは、これまでのニブロールとまた違う美しさを打ち出していた。スピード感のある展開の中で、毅然と浮かび上がる美しい身体。そこそこが、私たちの求める（生）の輝きなのだろうか。

象徴的なシーンでは、日常を思わず舞台美術の上からモノをどんどん投げつけるラストも圧巻だった。人にもモノにも命があるのに、ただただ消費されていく現代の映し鏡だとすれば、なんとも哀しい光景だが、観客は心を強く揺さぶられたらう。

なお、当劇場のワークショップで矢内原たちと出会ったダンサー3人が愛知公演に出演。その際に作ったシーンが本番に反映されたのもマレなこと。今後の希望の光となった。

ニブロール「リアルリアリティ RealReality」



6月5日(金)～7日(日)、愛知県芸術劇場小ホールにて公演 Photo: 羽鳥直志

ミニセレーMini Theater Selection-は、「あなたの心に一石を投じる」「感動を疑え」をコンセプトに革新的なステージを集めた新シリーズ。小ホールの濃密な空間で展開される音楽やダンス、演劇の驚くべき表現は、未知の体験となるはず！（広報担当：福島尚子）



～表現を支える現場レポート～

“生活と文化を結ぶ マツザカヤ”に お客様との関係を学ぶ



松坂屋名古屋店の原田育彦さんと松田良弘さん

愛知を代表する老舗百貨店のひとつ、松坂屋名古屋店には意外なことに愛知芸術文化センターとの共通点が存在する。それは美術館、ホール、パイプオルガンを所有していること。栄地区のランドマークである両者に文化的接点はあるのか？直接お邪魔してスタッフのみなさんにお話をうかがいました！

呉 服店として出発して創業400余年。1910年に会社化し、栄に百貨店を開業してからも100年以上の歴史を持つ老舗・松坂屋。同百貨店は1991年に名古屋店南館をオープン。その南館では「松坂屋美術館」「マツザカヤホール」「パイプオルガン」という文化的設備も充実させ、当地の人々の耳目を集めた。

「今はそれほど強く打ち出していませんが、1948（昭和23）年に制定された、生活と文化を結ぶマツザカヤというキャッチフレーズの精神は息づいていて、地域の方々により良い生活を提案したいという想いには変わりありません。そういう理念の表れとして、美術館やホール、パイプオルガンを備えることになったのだと思います」とは、営業推進部スタッフの松田良弘さん。中でも松坂屋美術館は近年、バラエティに富んだ展覧会を実施。営業推進部マネージャーとして主に美術館の運営に携わってきた原田育彦さんはこう語る。

「洋画や工芸を中心に展覧会を行ってきましたが、観客の変化とともに反応にも変化がありますよ」

ね。松坂屋美術館がやるべき企画はあるかと思いますが、一方で若い人が興味のあることもやっていかねばならないと感じています。当館は、例えば愛知県美術館と違って、所蔵品というものが少ないので、新聞社やテレビ局とのネットワークを生かし、オールマイティに、またバランスを見ながら展覧会を行っていくことが重要になりますね」

「生演奏のうえ無料です（笑）、4階まで吹き抜けの空間で聴いていただけでも貴重なんじゃないかと。クリスマスなどシーズンによっては曲目にも趣向を凝らしています」と、松田さん。今年はいわゆる「栄ミナミ」の商業施設が異例のコロナレーションを敢行。本来は競合関係にある松坂屋、ラシック、名古屋バルコが手を組んで同地区を盛り上げた。

愛知芸術文化センターでも、近年ではメナード美術館とオリジナルグッズでコラボ。街や文化は「生き物」であり、企業も文化施設も状況は日々めまぐるしく変化している。

「マツザカヤと当センター、いや、それだけでなく、もつと多くの企業や施設が協力しあって、栄を激変させる日が訪れるかも……!?」最後の松田さんの言葉には、人と人を結ぶことの大切さを実感するのであった。「娯楽も、ファッションも、グルメも、すべてを含めて、すべてがあつて、百貨だと思っただけです。そして、それらはお客様の支持があつてこそ。僕らは、お客様の求めるものにこたえつ、「提案していく使命もあると考えています」



松坂屋美術館（南館7階）

「世界の印象派展」で開館して以来、開館10周年記念には「レオナルド・ダ・ヴィンチ 白貂を抱く貴婦人 チャルトリスコレクション展」を開催。洋画の展覧会を軸にしなが、近年では「鳥山明 The World of DRAGON BALL（ドラゴンボール展）」「スヌーピー×日本の匠展」「くまのプーさん展」など美術の枠を越えた観客層の展覧会も行い、現在までに830万人以上の観客を動員してきた。なお、2015年9月12日（土）からはデュッセルドルフ美術館ゲルター・ケプコレクションで構成された「アー・ルー・ヌー・ヴォーのガラス展」を予定している。



マツザカヤホール（南館8階）

各種イベントや催事など、幅広く活用されている多目的ホール。往時は、毎回チケットが瞬く間に完売する人気興行「松坂屋寄席」が定期的に開催され、東西の名立たる落語家や漫才師が来場した。また、故・つかこうへいの劇団が舞台を上演したことも。

パイプオルガン（南館1階）

久屋大通に面したオルガン広場にあるパイプオルガンは、百貨店内に設置されたものとしては日本で初めての本格的な逸品。カナダのカサヴァン・フレール社製作で、ストップ数40・パイプ数3,231本。パイプの最大長11メートルは劇場コンサートホールのもと同規模で、国内最大級に当たる。現在は、土日・祝日の11:00/13:00/15:00/17:00に演奏が行われている（事情により変更の場合あり）。



松坂屋資料館の展示より。歴史をひもとくと、松坂屋の前身「いとう呉服店」が1911（明治44）年に「いとう呉服店少年音楽隊」を創設。この音楽隊は管楽器のみのバンドから出発して、2年後に弦楽器も入ったオーケストラへと成長。活躍の場も広がり、1938（昭和13）年には中央交響楽団と改名、活動拠点を東京に移す。そして1948（昭和23）年、東京フィルハーモニー交響楽団に改称。日本を代表する交響楽団へと発展していった。松坂屋と文化芸術の関係がわかるエピソードのひとつだ。



松坂屋名古屋店

住所：愛知県名古屋市中区栄3-16-1
交通：地下鉄矢場町駅・地下通路直結（5・6番出口）/ 地下鉄栄駅16番出口より南へ徒歩5分

※不定休。

詳しくは [松坂屋名古屋店](#) [検索](#)

劇場づくりは人づくり

愛知県芸術劇場では、舞台芸術を支える人材を育てるため、さまざまな取組みを行っています。また、愛知県美術館でも、博物館実習や子ども向けの鑑賞プログラムなどを行っています。



実践実習プログラム2年目の2人。主催公演では、スタッフの一員として活躍しています！

1. 劇場の仕事について 知りたい人のために



職場体験
プログラム

各部署のスタッフが現場を語る。中には館長による講義も。

高校生～大学生が、劇場を「職場」として体験。舞台技術、企画制作などの仕事のいろはについて、短期集中で学びます。

2. 舞台芸術のプロを 目指す人のために



実践実習
プログラム

公演での実習では緊張が走る。スタッフも手加減なし！

数か月～半年超の長期スパンで公演制作にかかわります。音楽、演劇などいろんな公演を通して基礎力・経験値を高めます。

3. 県内の劇場の 新任職員のために



愛公文
セミナー

劇場職員の登竜門(?)。ケーブルの八の字巻に挑戦。

対象は、新規採用や異動で劇場に来たばかりの職員。劇場職員として知っておくべきことを、県内の先輩職員が教えます。

4. 全国の劇場の中堅～ ベテラン職員のために



劇場職員
セミナー

いざ実践！初心者のための実地訓練は、平台を使ってのひな壇づくり。

「事務職員にこそ受けてほしい」舞台技術セミナーや「広報セミナー」など、ツボを突いたテーマを設定しています。

編集後記

今号の特集は、愛知芸文フェス！愛知芸術文化センターの誕生日10月30日(さそり座!)に合わせて企画された、さまざまなイベントをご紹介します。ふとオフィスを見渡すと、センターが開館した1992年前後に生まれたスタッフもちらほら。そして気がつけば自分も中年に…。今号で取材させていただいた、松坂屋さんの400年に比べると足元にもおよびませんが、ひとつひとつ歴史を重ねてまいります!!



広報担当：小出 充訓

球子ピカレスク

球子 子女史の作品は正直よく解からない。リレートークをするので実物を観てみたが、絵肌のあまりの汚なさにもう頭を抱えてしまった。評価の言葉も浮かばぬままトークに向う車内で東近美の図録を読むと、小林古径の球子評が在り、ゲテモノには違いないがその作風を捨ててはならないと云った事が書いてある。それに続けてゲテモノと本物は紙一重だとも書いてあり、何となく解ってきた。

ゲテモノではあつても其此に嘘はない。小綺麗なニセモノになる位ならゲテモノを通せという事だろう。その言葉を守つてか、球子子女史はゲテモノのド真中を突っ切つて行った様に見える。私が頭を抱えた作品群は古径評の10年か20年後のもので、何とホンドまで練込まれていると云い、しかしその時期を過ぎると、見切つたように絵肌はすっきりしていった。球子作品は、周りの作家に反感と共に自問をもって迎えられたのではないか。あれを美しいとは思えない。けれど、では自分は小綺麗なニセモノではないのかと。巨大なピカレスクとして球子作品が在る時、自作の小悪党部分をあぶり出された作家は多かつたに違いない。ただ、球子子女史の。本当はゲテモノ一つではない。若い可憐な作にも、シンプルなスケッチの中にも本当



会場風景

生誕110年 片岡球子展

6月12日(金)～7月26日(日)
愛知県美術館にて開催

の球子子女史がいる。それらを押し殺さざるを得ない境遇しかゆるされなかつた球子子女史の哀しさよ。

ピアノ曲とはいかなるものか？
フェラーリが語りかける
答えとは

音 作品を創つて発表するという点で私は作曲家であると自負しているが、ピアノ曲とはいかなるものか？という問いに作曲家として答えることは、とても難しい。ショパンやラフマニフが出した答えと同じものを提示したところで、現代人の耳に響くものにはならない。その問いに対するひとつの答えを、ピアニスト中川賢一氏による「フェラーリのピアノ曲を堪能する！」に確かに聴いた、と感じた。

2台ピアノとトロンボーン奏者による《ディダスカリー2》以外は、全て電子音響とピアノストとのデュオだった。「ピアノ曲のコンサート」らしからぬ派手な照明。ピアノの響きと調和し、かつ刺激的に仕上げたスピーカーからのサウンド。そして中川氏による猛烈な指(時に腕)使い。さながらピアノ対人間のガチンコ勝負を、リング外から観戦するような光景。その印象のなかに、フェラーリ作品の繊細な部分はより際立つた。自然音とピアノとの語らいにのせて、ピアノ曲とは…という問いへ優しく語りかけるように。



中川賢一 現代音楽レクチャー&コンサート 「フェラーリのピアノ曲を 堪能する!」

6月24日(水)・7月8日(水)・7月18日(土)
愛知県芸術劇場小ホールにて公演



Photo: 羽鳥直志

池田 萌(作曲家パフォーマー)

Check!



愛知県美術館ミュージアムショップでは、所蔵作品図録や、過去に開催された展覧会図録の郵送料も承っておりますので、お気軽にお問合せください。もちろん「生誕110年 片岡球子展」の図録もありますよ！(ミュージアムショップ担当: 近藤広基)

FLOOR GUIDE

開扉：9:00 休館日：第1・第3月曜日(6月は毎週月曜日)、年末年始

総合案内
 レストラン
 喫茶店
 公衆電話
 AED
 やさしいトイレ
 赤ちゃんコーナー
 トイレ
 連絡通路有

12F **アートスペースA~H
屋外展示スペース**

(11F) **展望回廊**

10F **美術館(所蔵品・企画展示室)
屋外展示スペース
ミュージアムショップ**

(9F)

8F **美術館(ギャラリー)A~J**

(7F)

6F **回遊歩廊**

(5F)

4F **コンサートホール**



(3F)

2F **大ホール**

← 西玄関・南玄関 オアシス21連絡橋 NHKビル連絡口



1F **アトライブラリー**

正面玄関

(B1)

小ホール



B2 **アートプラザ アートスペースX
リハーサル室**

← オアシス21地下連絡通路

B3 B4 B5 **駐車場(アートパーク東海)**

INFORMATION



愛知芸術文化センター「メールニュース」登録受付中!

美術館、劇場の情報をEメールで配信中!
ホームページからご登録ください。



愛知県芸術劇場ダイレクトメール会員募集中!

情報誌AACや主催公演情報、先行予約などのご案内をお届けします。
登録費・年会費無料

[申込方法]

必要事項を記入の上、郵送、FAX、Eメールでお申し込みください。

①氏名・ふりがな ②郵便番号・住所 ③ご連絡先(電話番号・Eメールアドレス)



ブログ、Facebook、Twitterやっています!

◎愛知芸術文化センター地下2階プレイガイド

052-972-0430 (月曜定休/祝日・振替休日の場合は翌日振替)

チケット

の主な取扱先

◎チケットぴあ

0570-02-9999 (サークルKサンクス、セブン-イレブンでも購入可)

◎アイ・チケット

0570-00-5310 (祝日を除く月曜~土曜 10:00~17:00)

◎名鉄ホールチケットセンター

052-561-7755 (10:00~18:00)



アクセス

[公共交通機関]

・名古屋市営地下鉄東山線または
名城線「栄」駅下車 徒歩5分
・名鉄瀬戸線「栄町」駅下車 徒歩5分
(オアシス21から地下連絡通路または2F
連絡橋経由)

[自動車]

名古屋高速東新町出口から3分

[駐車場]

有料駐車場「アートパーク東海」
(愛知芸術文化センター地下3・4・5階 約500台)



愛知芸術文化センター
AICHI ARTS CENTER

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2
TEL (052) 971-5511(代表)



お問合せ

愛知県芸術劇場(公益財団法人愛知県文化振興事業団)
広報・マーケティング室

TEL:052-955-5506(直通) FAX:052-971-5541 e-mail:mkt@aaf.or.jp



**虹の
キャヴァンサライ**

あいち
トリエンナーレ
2016

翼をひろげ、泉をさがそう——世界のアートと旅する芸術祭

あいちトリエンナーレ2016

芸術監督：港 千尋

テーマ：虹のキャヴァンサライ 創造する人間の旅

会期：2016年8月11日(木・祝)~10月23日(日)

主な会場：愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、
名古屋市内のまちなか、豊橋市内、岡崎市内

アトラボあいち大津橋&長者町オープン

「あいちトリエンナーレ2016」の開幕1年前を機に、愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学による企画展示や、あいちトリエンナーレ及び現代アート等に関する情報の発信拠点として、「アトラボあいち」がオープンします。

愛知県内には3つの芸術大学があり、優れたアーティストを数多く輩出しているのをご存知ですか? 「アトラボあいち大津橋」「アトラボあいち長者町」では、これらの大学生や卒業生を中心とした企画展示を行っています。フレッシュな才能によるアートをぜひお楽しみ下さい。

■場所

①アトラボあいち大津橋
(名古屋市中区丸の内3-4-13、愛知県庁大津橋分室2~3階)

②アトラボあいち長者町
(名古屋市中区錦2-7-20、旧玉屋ビル3~5階)

■開館日時

①金曜11:00~20:00、土・日曜・祝11:00~19:00

②木・土曜:11:00~19:00、金曜:11:00~20:00

※詳細はあいちトリエンナーレ公式Webサイトをご覧ください。



愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学による合同展示「Sky Over I」を開催中。アトラボあいち大津橋とアトラボあいち長者町にて、9月27日(日)まで。

トリエンナーレスクール開催中!

来年の開催に向けて、現代アートを楽しみながら学んでいただくイベントを開催しています。

詳しくは、あいちトリエンナーレ公式サイトをチェック!

aichitriennale.jp